

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基礎学力の向上	家庭学習を充実させ、基礎学力を定着させる。	・ 1 時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：25.1% ・ 検定対策、学力下位層に対する指導、課題提出等の取組を行い、一定の成果が得られた。	1 1 時間の家庭学習を行っている生徒の割合：30%以上 2 教科間の連携を密にし、地域貢献に繋がる汎用性のある学力を育成する。 3 課題研究(3年時)では、「探究的な学習の視点」を持って取り組む。	1 各教科が連携して家庭学習に取り組ませると同時に、生徒自ら学びを深めたいくなるような仕掛け作りをより一層行う。 2 定期考査や各種検定の対策を行うとともに学力下位層に対するきめの細かい学習指導を行う。 3 「探究的な学習」の視点を身につけるため、各種の研修、教科横断型の学びについての姿勢を身につける。			
	一般教養を習得させ、社会人としての必要な力を身に付けさせる。	・ ICT活用を進めているところ(職員の81.6%が「ICTを活用した授業を実施」と回答)。 ・ 授業理解における肯定的評価の割合：85.8%、朝読書・朝勉強テストで知識が身についたと感じている生徒の割合：73.8%	4 全ての教員がICTを活用した授業を行っている。 5 授業理解における肯定的評価」の割合及び朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：85%以上	4 Chromebookを授業や課題に積極的に活用する。そのための校内研修を充実させる。 5 朝勉強テストを含め知識及び学力向上について、その効果、代替策についてICT活用を視野に入れながら研究、検討を行う。			

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 基本的生活習慣の確立	知・徳・体のバランスが良い生徒を育成する	・基本的生活習慣が確立していると考えている割合： 生徒88.6% 保護者：85.5% ・保健室来室者の状況等を鑑みて、必要に応じた保健指導を実施し、基本的生活習慣の定着を図った。	1 基本的生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：両者とも90%以上 2 支援を必要とする生徒への理解に努め、全職員で共有している。	1 生徒、保護者、教育相談をはじめとする校内組織及び関係機関の連携を強める。また生徒が安心して学校生活を送れるよう、生徒に積極的な働き方を行う。 2 hyper-QUやコミュニケーショントレーニングを行い、生徒情報を共有しながらきめ細かく対応していく。			
	社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識を習得させる	・登下校時、ネクタイ未着用の生徒が一部見られる。 ・日常的に挨拶ができない生徒がみられる。	3 全学年が新制服となり90%以上の生徒がきちんとした着こなしをしている。 4 継続的に分離礼の取組や挨拶の励行を教職員より行う。	3 服装面・生活面ともに全職員で連携し、粘り強く指導する。 4 学校生活の全ての場面で全職員で礼儀・作法について指導する。			

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 的確な情報発信	メディアを利用して、教育内容を分かりやすく伝達する。	・行事や授業の様子等、頻繁にホームページに掲載することができた。新たにInstagramによる情報発信を開始した。	1 ホームページやSNSがさらに見やすく充実したものになっている。	1 教職員がICTの知識を深めることで、より多くの教職員がさまざまな内容について情報発信を行う。			
	特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿を発信する。	・みつばち学習発表会では、各科の取組や国際交流等の発表を行うことができた。	2 みつばち学習発表会の内容が深まり開かれたものになっている。	2 取組に探究的な要素を取り入れ、発表方法も工夫する。また3年間のスパンで学びを深める取組とする。			

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 キャリア教育 の充実	職業観・勤労観の育成を図り、進路の実現を目指す。	・幅広い視野で主体的な進路検討ができるようにするため、学年全体で大学等見学、企業見学及び対話型の企業人との座談会をするなどの充実を図った。 ・放課後に、生徒保護者を対象とした大学説明会の開催や、本校に適した進学情報を提供した。	1 生徒の職業観・勤労観が高まり、明確な進路意識を持っている。 2 大学進学を目指す生徒がより高い意識を持って受験に挑戦している。	1 専門性を活かしたキャリアを形成するため、体系的な取組となる年間計画を再構築し、各種事業の充実を図る。 2 より高い意識を持って受験に挑戦できるようにするため、総合型選抜や学校推薦型選抜の対応に関する職員研修等を行う。			
	専門的な学習の取組を深め、より高度な専門資格を取得させる。	・専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：92.5%。 資格取得に向けて放課後講習を継続的にしている(商業科、調理・コース、英語科等)	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：90%以上	3 新たな学習指導要領に沿った教育法、STEAM教育の推進を図る。 より難易度の高い資格の取得へ向けて、生徒への動機づけを行う。			

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
5 地域社会への 貢献	地域活力の導入や地域活性化の推進を行う。	・課題研究において、地域連携や地域貢献に取り組んだグループが多く見られた。	1 生徒が探究心を持って主体的に課題研究に取り組んでいる。	1 生徒が主体性を持って課題研究に取り組み仕掛けづくりを行い、地域へ積極的に向かい出す。			
	学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財を育成する。	・eスポーツ活動（R5 22回の外部との連携）、家庭クラブによる各種イベントへの参加を行っている。 ・社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85%	2 販売実習等に主体的に取り組むことで、生徒が地域に愛着をいだき、地域の方々も本校を応援している。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85%以上	2 地域交流の拠点となる施設との交流や連携を深め、地域に密着した活動を行う。また、eスポーツ活動を通じて高齢者施設等とのつながりを深める。 3 生徒が達成感を感じることができ活動にすることで、生徒の積極性を高めていく。またICT等を活用しながら地域のニーズを把握、掘り下げ、新たな形での地域貢献を模索していく。			
6 業務改善の取組	ワークライフバランスを保つことを推進する。	・時間外業務が年間360時間を超える職員の割合：5%（R5年度と同程度） ・一部教員に長時間勤務が偏る傾向がある。	1 各個人の時間外業務が月30時間以内（最大45時間）以内、年360時間以内	1 ICTの活用を通じ業務の効率化を図り、また教員間での分担を推進することで科内及び分掌内で協働・共有化を図る。			
	長時間勤務を解消する。		2 「部活動に係る活動方針」沿った部活動が行われている。	2 休日の部活動においては、できる限り顧問間で分担し、指導するようにする。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]